

## 令和4年度第1回 大竹市総合戦略推進会議・会議録

と き 令和4年9月22日（木）19：00～20：30

ところ 大竹市役所 3階大会議室

### 出席者氏名（敬称略）

- 委員（7名） 金谷 信子（広島市立大学国際学部）  
兼田 洋一（広島県地域政策局地域力創造課）  
梶山 恵（連合広島大竹・廿日市地域協議会）  
前田 利祥（一般社団法人大竹青年会議所）  
古市 雅之（元株式会社中国新聞社大竹支局）  
高橋 央史（翔法務事務所・司法書士）  
小川 浩司（株式会社広島銀行大竹支店）
- 市（9名） 庁議構成員（市長除く）  
副市長、教育長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、  
建設部長、上下水道局長、消防長、地籍調査担当部長

### 次 第

- 1 「第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の令和3年度評価の検証
- 2 その他

### 資 料

- ① 第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略（「第1期大竹市まちづくり基本計画」より抜粋）
- ② 第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度評価資料（一覧）
- ③ 第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度評価資料（個票）

※発言記録は裏面

※ 発言記録の中では、「大竹市総合戦略推進会議」を「推進会議」、「第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を「第2期総合戦略」、「第1期大竹市まちづくり基本計画」を「第1期基本計画」、「大竹市まちづくり基本計画実施計画」を「実施計画」と略称表記しています。

事務局 時間になりましたので、ただいまから令和4年度第1回推進会議を開催します。  
開会に先立ちまして、市長からあいさつを申し上げます。

市長 皆さんこんばんは。大変お忙しいところ、またお疲れのところ、遅い時間からお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。台風の影響を心配しておりましたが、大事には至らず安心しております。

さて、令和3年度は、第1期基本計画、そして第2期総合戦略の初年度でしたが、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を多く大きく受けた年となりました。本市の事業も規模の縮小や行事の中止延期が相次ぎ、感染症という目に見えないものと向き合いながら、行政を運営することの難しさを実感いたしました。社会全体で変化が求められる中で、市民の皆様の幸せにつながるよう、できる範囲の努力を積み重ね、何とか事業を取り組んできたという状況でございます。

そのような中でも、少しずつ明るい兆しが見えてきています。東洋経済新報社が毎年公表する、全国の市地区を対象とした住みよさランキング2022に、本市が広島県内で唯一50位以内となる45位に入りました。一方、今年度から第1期基本計画、第2期総合戦略の取組に対する市民の皆様の実感を伺い、評価に代えるための「幸せ実感まちづくりアンケート」を開始いたしました。現在、集計分析中のため、詳しいことはお伝えできませんが、「安全・安心」の分野で7割を超える方が、「生活・環境」の分野では6割を超える方が肯定的な回答を寄せてくださっております。市民の皆様の実感と指標から読み取れる住みよさが一致することが、本当に住みよいまちの実現には重要であると考えます。

全国的な少子化、人口減少に歯止めがかからない中で、第2期総合戦略の取組がしっかりと成果に結びつくよう、そして本市に住み、本市で働き、様々な形で本市に関わってくださっている皆様に、第2期総合戦略の基本理念である「生涯おおたけ、やっぱりおおたけ」という気持ちを持っていただけますよう、委員の皆様の知恵をいただきながら取り組んでまいりたいと考えております。

本日は忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしく願いを申し上げます。

事務局 ありがとうございました。

市長は所用がございますので、ここで退席させていただきます。

(市長退席)

事務局 次に、会議を始めます前に、今回の会議から新しく委員になられたお二方をご紹介させていただきます。

まず初めに、株式会社広島銀行大竹支店、支店長の小川浩司様です。小川様の前任の森原様のご異動により、新たに任命させていただいております。それでは小川様から一言お願いいたします。

小川委員 はじめまして。広島銀行大竹支店の小川と申します。4月の異動で大竹支店に着任となりました。出身は福山でございますが、大竹市での勤務は初めてということで、まだ不慣れな点もございますが、地域金融機関として大竹市のまち・ひと・しごとの創生に積極的に関わっていきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

続きまして、広島県地域政策局地域力創造課長の兼田洋一様です。兼田様は、前任の地域力創造課長であった山田様の4月1日付の人事異動により、新たに任命させていただいております。

それでは兼田様から一言お願いいたします。

兼田委員 広島県庁地域力創造課長になりました兼田と申します。よろしくお願い申し上げます。実のところ4年前まで地域力創造課におりまして、その際、課長の代理でこの会議に参加させていただいたことがございます。久しぶりということで、分からないことも多いかと思いますが、皆様よろしくお願い申し上げます。

事務局 ありがとうございます。

次に、配布資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

事務局 それでは議事に入りたいと思います。会議の進行を金谷会長にお願いしたいと思います。

金谷会長 皆様こんばんは。先日からの台風で、大竹市内、広島県内にも大きな影響があったようですが、皆様ご無事でしたでしょうか。私は本日本当

に申し訳ないのですが、事情によりオンライン参加とさせていただいております。ただ、台風で先ほどまでJRが止まっていたようですので、結果的にはオンライン参加によって予定通り開催できるようになったということで、失礼ではありますが、ご容赦いただきますようよろしくお願いいたします。

本日は、令和3年度からの第2期総合計画の初年度が終了したために、これまで市が実施してきた取組の評価について、委員の皆様にご議論をいただき、それを今後の大竹市の取組の実効性を高めることに生かすことが、議論の目的です。

この会議で何か意見を一つにまとめるという場にはしていませんので、忌憚のないご意見・ご提案をいただきたいと思います。些細なことでも結構ですので、自由に、積極的にご発言いただければと思いますので、執行部、事務局の皆様におかれましても、ここで出たご提案・ご意見への対応をよろしくお願いいたします。

それから、申し訳ないのですが、皆様にご発言をされる際には、小さく挙手をしていただきましたら、事務局の方がマイクをお渡ししますので、ご協力をよろしくお願いいたします。また、本日の会議は、遅くとも20時30分をめどに終わらせたいと思っておりますので、こちらもご協力をよろしくお願いいたします。

それではレジメに沿って会議を進めます。

第2期総合戦略の令和3年度の評価について、事務局から説明をお願いいたします。

## 事務局

本日初めてご出席をいただいている方もいらっしゃいますので、最初に第2期総合戦略の概要につきまして、簡単にお話をさせていただきます。第2期総合戦略の基本理念は「生涯おおたけ やっぱりおおたけ」です。大竹で生まれ育った人が住み続けたいと思い、大竹を離れた人も、大竹に愛着を持ってふるさとと繋がり続け、大竹市外の人にも大竹をよいまちと思ってもらえるよう、国の第2期総合戦略が掲げる「まち」「ひと」「しごと」の各基本目標を踏まえ、本市の第2期総合戦略でも3つの基本目標を掲げ、その実現に向けた取組を進めることとしています。

この3つの基本目標の成果を測るための指標をそれぞれ設定しています。基本目標1「まち」の成果指標は「社会増減の均衡」、基本目標2「ひと」の成果指標は「就学前児童人口の減少を抑える」、基本目標3「しごと」の成果指標は「法人市民税納税義務者数を増やす」となっています。

これらの成果指標の達成に向けて、令和3年度は第2期総合戦略の初

年度として、各種事業に取り組んできましたので、ここからはその評価について説明します。

総評としては、新型コロナウイルスの影響が極めて大きく、事業の中止や規模縮小などにより、特に事業への参加者数や事業の実施数などの指標は、オンラインの活用など一定の工夫が図られたものを除き、軒並み例年を下回る結果となっています。

なお KPI（重要業績評価指標）については、第 1 期基本計画における施策ごとの KPI のうち第 2 期総合戦略に関連するものを参考に資料に掲載しています。KPI は令和 5 年度に目標値を設定しており、その達成に向けて各事業に取り組むこととしています。

これまでの推進会議では、複数の指標の効力の大きさを考慮することなく実際に評価することへの疑問や、記号にとらわれすぎているなどのご意見をいただきました。今回の評価に当たっては、各事業指標の数値に対する○・▼の記号は、令和 3 年度にどれだけ予定していた事業内容に取り組みかの参考とし、○の数のみをもって評価とはせず、最終的には KPI の達成状況、そして 3 つの基本目標ごとの成果指標の達成状況をもって、戦略全体の評価となるものと考えています。

本日は時間の都合上、個々の事業の説明は割愛し、3 つの基本目標ごとの総合的な評価について説明させていただきます。

まず、基本目標 1「まち」の取組に対する総合評価です。基本目標は「誰もが健康で生きがいを持ち、安心して暮らせる魅力的な地域を実現する」です。

新型コロナウイルスの影響で、移動自粛などにより市外への往来が減少する中、東洋経済新報社の「住みよさランキング」など民間が公表する各種ランキングで、本市が上位に位置付けられるなど、コンパクトな市域に暮らしに必要なものが比較的整っている本市の特性が注目されています。今後、晴海臨海公園沖の民間美術館の開館や JR 大竹駅の改築完了、自由通路の開設に加え、旧小方小・中学校の跡地活用など、本市の住みよさと魅力をさらに高めていく取組が求められます。

大竹駅の駅舎の橋上化及び東西自由通路の開設、駅前広場の整備はスケジュールどおり進んでおり、駅周辺の回遊性の向上や、新たな開発の促進が期待されます。

また、旧小方小・中学校跡地の活用は、国道 2 号沿いの大規模な空き地という特性から様々な用途が期待されており、民間美術館や晴海臨海公園などとの結節や JR 新駅の構想も含め、エリア全体の活性化と魅力の向上に繋がるような開発の可能性を検討していく必要があります。

災害や犯罪などの少なさから、以前から安全・安心なまちであるとの評価が市民の間では定着しています。加えて、近年、自然災害の頻発化

激甚化や新型コロナウイルスの感染拡大など、安全に対する市民の意識が高まっており、防災に関する教育や訓練の実施回数の充実や啓発の強化などにより、防災情報などをお知らせするメールシステムへの登録者数も増加しています。一方で、人口減少や高齢化、ライフスタイルの変化などにより、地域コミュニティの衰退が問題となる中で、自主防災組織の加入率を上げることや、災害時に支援が必要な人へのフォロー体制の確立などが今後の課題です。

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、市民一人ひとりの健康への意識が高まる一方で、地域での健康づくりの活動の中止や制限、各種検診への参加控えなどの影響も生じています。また、あらゆる人が住み慣れた地域で生活するための地域福祉の推進は、高齢化などによる担い手不足を解消しつつ、地域と行政、関係機関の相互の協力や緊密な連携がより一層求められる状況にあります。支援が必要な人への支援体制を行政内部で構築していくことも、今後の大きな課題です。

まちづくりの最小単位としての地域を維持しつつ、住みよさと魅力を高めるためのインフラ整備などのハード面の充実を同時に進めながら、市民が笑顔で元気に暮らせて、誰もが「生涯おおたけ やっぱりおおたけ」と思えるような魅力ある持続可能なまちづくりに取り組んでいく必要があります。

次に、基本目標2「ひと」の取組に対する総合評価です。基本目標は「結婚、出産、子育ての希望をかなえる」です。

全国的な少子化に新型コロナウイルスの感染拡大がさらなる拍車をかける中で、本市においても出生数が減少傾向にあります。妊娠から出産、就学前、就学後と子どもの成長段階に応じた支援を行い、本市で産み育てたいと思えるような施策を展開していくことが求められます。

行事などの中止や規模縮小により、人と人が直接触れ合い、交流する機会が減少し、令和3年度は学校、幼稚園や保育園、地域など様々な場所でその影響が見られました。そうした中でも、感染対策を入念に行い、オンラインツールなども活用して事業の継続に努めました。

小・中学校では、すべての児童生徒、教職員にタブレットを配布し、ICTを活用した学習環境の整備に取り組みました。教職員の活用スキルの習熟度にばらつきがあるなどの課題はありますが、ICT支援員の配置やマニュアル整備などにより、ICTを学習環境の充実・向上により一層つなげていくことが求められます。

地域と学校の協働連携による子供向けの各種講座や教室が大変盛況であり、新型コロナ感染拡大防止のため、定員を減らすなど工夫しながら事業を継続しました。ボランティアなどの人材不足が大きな課題となっており、コミュニティ・スクール制度の導入などを機に、学校、保護

者、地域がより一層連携しながら充実した学習機会を提供していくことが求められます。

母子保健・子育て支援分野では、新型コロナウイルスの感染拡大により、各種健康診査の受診率が低下し、各種子育て支援サービスの利用も減少するなどの影響が生じています。一方で、子育て世代包括支援センター（おおたけ版ネウボラ）の開始により、関係部署・関係機関等が連携し、切れ目のない子育て支援を行う体制が構築されつつあり、令和4年度からは市役所敷地内に認定こども園と子育て支援センターを併設した「にじいろこども園」が開設し、子育て支援のワンストップ拠点としての役割が期待されています。児童虐待の増加など、ハイリスク家庭への専門的な支援が求められていますが、人材不足などで専門職員の配置が難しく、組織としての体制づくりが課題です。今後は、国の子ども家庭庁の創設などの動きを踏まえ、教育、子育て、母子保健などの各分野のより緊密な連携を行っていく必要があります。

最後に、基本目標3「しごと」の取組に対する総合評価です。基本目標は「地域経済を活性化し、安心して働ける魅力的な雇用の場を創出する」です。

新型コロナウイルスの感染拡大が本市の産業界にもたらす影響が懸念されましたが、本市に工場を構える企業の多くは、堅調な経営を維持し、法人市民税や固定資産税などの市税収入への大きな影響は見られませんでした。

一方で、商業分野は、飲食店への営業時間短縮要請などによる経営の悪化が懸念されたことから、大竹商工会議所などと連携しながら、クーポン発行事業などの商業者支援や中小企業支援を重点的に行いました。令和4年度以降も、新型コロナウイルスがもたらす影響は予測が難しく、また物価高騰なども経営圧迫の要因となっており、廃業者の増加なども懸念されることから、商工会議所や金融機関その他関係機関と連携した支援を継続・強化していくことが求められます。

農林水産業では、本市のブランド魚である「あたたハマチ to レモン」が赤潮の影響で生産量を大きく減らしましたが、商品としての知名度は向上しつつあります。ただし生産業者が限定されており、生産量が拡大できない状況にあることから、生産量増加と流通の拡大を図り、魚価の向上につなげていくことが今後の大きな課題です。

観光分野は、新型コロナ感染拡大による行動制限などで観光客数が大きく減少しましたが、令和4年度は市外からの往来も戻りつつあります。大型遊具やデイキャンプ場を備え、家族連れに人気の晴海臨海公園に加え、隣接する県有地に民間美術館が来年開館する予定であり、新たな観光スポットとして本市の魅力を高めることが期待されます。こうし

た動きを本市の知名度イメージの向上に生かし、地元への消費拡大などにつなげていくことが重要です。

用途が決まっていない旧小方小・中学校跡地の活用なども含めて、個々の事業を有機的に結びつけながら、地域経済の活性化や新たな雇用の創出に繋がるような取組の強化が求められます。

事業全体としては、新型コロナウイルス感染症が何度となく流行を迎えながら、今年度は昨年度までのような行動制限が生じていないため、感染対策を十分行いながら事業を実施しています。事業の中止や縮小は、それを享受する市民の皆様の機会の創出や支援の停滞に繋がります。本市のまちづくりの長期的な指針である「大竹市まちづくり基本構想」のキャッチフレーズは「笑顔、元気♡かがやく大竹」です。市民の皆様が笑顔で元気に暮らせることが、市の活力となり、将来に渡ってかがやく大竹市を作ることになると考えます。今後、この第2期総合戦略を進めていく上では、そうした視点を忘れることなく、施策・事業に取り組んでいきたいと考えています。

金谷会長

ありがとうございました。

それでは事務局からの説明を踏まえて、皆様から第2期総合戦略の令和3年度の実績の取組の評価に対して意見を聞きたいと思っております。評価の対象となる事業がたくさんあるので難しいですが、気がついたところからお願いします。

兼田委員

事前に資料をもらっていて、十分目を通すことができていないのですが、それぞれの基本目標ごとの総合評価というのは、関連するKPIの実績や事業指標の達成状況を踏まえて書かれているものと考えてよいでしょうか。

事務局

はい。全ての事業に対して、令和3年度の目標値に対する実績値とその評価、それから最終年度である令和6年度に向けた今後の推移について、事業担当課が作成した評価シートを基に整理しています。またKPIの達成に向けた今後の展望なども必要に応じてヒアリングを行っています。

兼田委員

それぞれのKPIごとに評価をしているということでしょうか。

事務局

KPIというよりは、まず事業ごとに評価を行っています。実はそもそもこのKPIは、第2期総合戦略を内包する第1期基本計画の6つの行政分野の施策ごとのKPIであり、資料には第2期総合戦略に該当する



事業に関連するものを掲載しています。厳密には第2期総合戦略の KPI ではないのですが、第2期総合戦略の事業をしっかりと行っていくことで、結果的にはこれらの KPI にも成果として表れていくと考えています。今回は第2期総合戦略の初年度ということもあり、まずは各事業をどれだけできたかに着目した評価としています。

兼田委員

この会議は、第2期総合戦略の取組の評価に対する意見を通じて PDCA サイクルをしっかりと回して検証しながら次の施策に生かしてもらうことと、市がやっていることを市民の皆様公表して知ってもらうことが役割なのかなと思っているのですが、今の説明で、総合評価というものが、どのような評価を行ってこういう内容になったのか、各事業の評価などとのリンクがなかなか難しくて分かりづらいなと思ったので、もう少し分かりやすく、市民の皆様に見てもらえるようにしたいと思います。それで「関連する KPI」なのですが、市だけが頑張ってもどうにもならないものが含まれているように思います。職員も達成できそうにない目標を設定されてしまうと多分モチベーションが下がってしまうこともあると思うので、難しいけれど頑張れば達成できる目標を探して設定していくことも必要ではないかと思います。その上で結果をしっかりと検証して評価して、市民の皆様に見てもらおうということが必要だと思うので、総合評価だけだと細かい部分がどうだったのかが分からないという印象を持ちました。

金谷会長

その点で言いますと、資料では事業指標の令和3年度の目標値の達成状況を記号で示し、その横に関連する KPI の状況を掲載していますが、市民の皆様にはこの資料の形で公表するのでしょうか。

事務局

今回の資料は、この会議の議事録をホームページで公開する際に併せて掲載しますが、最終的には、毎年度作成している行政評価報告書に、冒頭の市長の挨拶にもありました「“幸せ実感”大竹市まちづくりアンケート」の集計結果とその分析と合わせて掲載する予定です。市民の皆様に分かりやすい形で掲載したいと考えていますが、このまま載せるかということ、そこは整理が必要と思います。

金谷会長

目標値を「達成できている」「達成できていない」を2種類の記号だけで表していますが、目標値に1人足りない、1%足りないというだけでも達成していないという評価が、指標によっては厳しすぎると感じるものもあり、評価の表し方として若干乱暴な印象があります。例えば基本目標1「まち」の「図書館運営事業」の事業指標「図書館で開催する

年間行事数」は、目標値が 15 事業で実績値が 12 事業ですが、割合で言えば 8 割は達成できています。また「自主防災組織の育成指導事業」は、「自主防災組織の加入率」は目標値が 80%で実績値が 74%、「避難行動要支援者名簿の要支援で支援者が登録されている人の割合」は目標値が 80%で実績値が「36%」と、同じ未達成でも目標値との差がかなり違っていています。このように機械的な評価をしすぎて「そこそこ頑張っている」ということが見えなくなるのではないかと気になります。市としてはそのあたりをどのように考えていますか。

事務局 先ほどの兼田委員のご指摘と合わせて、一点補足をしますと、本日は時間の都合上触れておりませんが、評価資料は事業の一覧以外に、基本目標ごとに事業の個票を作成しており、その中で市としての評価を掲載していますので、行政評価報告書の作成時には、この評価も含めて市民の皆様に分かりやすい形で公表できるよう整理したいと考えています。

兼田委員 個票で事業ごとに評価をしているのですね。分かりました。こういう形で評価・検証を繰り返していくことで市民への説明になると思います。

事務局 よろしければ KPI の中で疑問を感じるもの、見直したほうがよいものがあれば、具体的に教えていただけないでしょうか。

兼田委員 例えば基本目標 3 「しごと」の「水産業振興事業」に関連する KPI の「海面漁業漁獲量」ですが、事業指標に「種苗放流量」を設定されていますが、放流だけで何とかなるようなものではないのかなと思います。また「港湾施設管理事業」の関連する KPI 「大竹港で取り扱う貨物の量」も、市の努力だけでは達成が難しいかなと思います。

事務局 ありがとうございます。

金谷会長 市の施策で KPI の数値を改善することが難しい場合、KPI 自体を変更することはできますか。

総務部長 KPI は、第 2 期総合戦略の 4 年間で各事業に取り組むことで増やしたい数値など、どういうものが目標としてふさわしいかを考えて設定しています。達成が難しいものも容易にできそうなものもありますが、達成すれば市がめざす姿を実現できるという考え方で設定していますので、KPI の変更は全体のバランスを考えながら検討したいと思います。

金谷会長 将来の市のビジョンを描く上で必要な数値目標という考え方もあると思って聞いていましたので、市単独では難しいかもしれないが上げておきたいという判断であれば、それでもよいと思います。

古市委員 基本目標2「ひと」の取組に関して、基本的に新型コロナウイルスの影響が色濃く出ていると思いますが、人材不足という言葉が評価の中に多く出てきています。例えばボランティアに対して少し報酬を出すとかできないかなと思います。また、休みながら働くワーケーションみたいな滞在型での人材確保というのもあり得るのかなと思います。あと、広島県でも進めていると思いますが、DX（デジタルトランスフォーメーション）を今後もっと考えていかないといけないかなと思います。本日は県の方もいらっしゃるので、後ろから支えてもらって、先進事例などを交えながらどんどん進めていけたらいいと思いますし、本日は一部オンライン会議になっていますが、このようにDXをいかに活用するかが行政としてポイントになってくると思います。

総務部長 なかなか本市の規模で、職員数も限られている中でDX専門の職員を自前で用意することが難しい状況で、できる範囲でということにはなりますが、活用できるものは積極的に活用していきたいということで、この4月から組織を変更してDXを進めていく体制は整えています。他の自治体に先駆けて進めていくところまではいきませんが、少しずつでも進めていきたいと思っています。

金谷会長 私の大学でもDXは流行りではありますが、まだ実態が見えてない部分もあります。進度を測りながら手堅くやっていくというのも一つの考え方だと思います。

小川委員 細かいことですが、基本目標2「ひと」の「教育推進事業」のICTの活用に関して、事業指標「学習者用端末の活用によって児童生徒の主体的な学びにつながったと感じる教員の割合」の実績値が60%で、関連するKPI「小・中学校の教育活動に満足している保護者の割合」が92%となっていて、教職員と保護者の間で結構差があります。保護者の方は全体的には満足されているのですが、ICTに対してはどう評価しているのかが分かれば、保護者の方が求めるICTの活用ができるような情報を幅広く集めていけるのではないかと思います。

教育長 貴重なご意見をありがとうございます。昨年度から児童生徒一人ひと

りに学習者用端末を配付し、まず昨年度は子どもたちにしっかり慣れてもらうために自由に使わせました。家庭に持ち帰って使用してもらうところまではできませんでしたが、今年度は家庭に持ち帰るための環境も整え、各家庭で学習者用端末を活用した学びを進めており、課題を見つけて、そこからいかにして教育効果を上げていくかということで、各学校現場で共通理解を図りながら進めています。今後は地域や保護者の方にもどのように発信していくかを考えていきたいと思ひます。

前田委員

新型コロナウイルスの感染が、まだまだ先行きが見えない中ではあります、少しずつ大きな事業などが進められている状況かと思ひます。「生涯おおたけ やっぱりおおたけ」という基本理念を踏まえると、子どもたちが東京など市外に出ていく流れはなかなか止められませんが、今、小学生や中学生が、新型コロナウイルスの影響で事業がなかなかできずに、大竹での思い出を共有できない状況が続くと、大竹に帰ってこようという思いも薄れていくんじゃないかと思ひます。祭りなども中止が続きましたが、祭りは皆がその思いを共有する場だと思ひますので、今年度、来年度は、そういう機会が増えるような環境づくりをしていただきたいと思ひます。

教育長

子どもたちにとってこの3年間は、学びの場が非常に少なかったと思ひます。安全・安心面を考えると、どうしても制限をかけなきゃいけない時期でしたが、今後はウィズコロナということで、地域の行事もそうですし、学校行事も運動会や学習発表会など、現在も各学校が工夫しながらやっていますが、子どもたちにとっても以前のような充実感がなかなか得られていないと思うので、学校だけでなく保護者、地域、そして子どもたち自身ともしっかり話し合いながら、より良い機会を作りたいと思ひています。市の教育目標の一つでもある「大竹で学んでよかった、大竹に誇りを持つ」というスタンスで、地域行事や市の自然などの体験を通してしっかりと学んでもらえるようにしたいと思ひます。

金谷会長

多分どの地域も、色々な活動を強制的に終了させられて、それをまた復活させるのは、言うは易しで実際には気持ちの面も含めて難しいと思ひます。子どもたちの思い出づくりの場として、祭りなど市民の方々との交流の機会を新たに仕切り直すために、市民と市の間でコミュニケーションを図るとか、市民の新しい提案を受け入れるような仕掛けのようなものがあれば教えてください。

市民生活部長 新たな仕掛けではないのですが、コイ・こいフェスティバルは、今年度は実施しようということで、実行委員会のほうで話を進めていただいています。あと個人的に私は空手を子どもに教えているんですが、スポーツの世界では、この4月ぐらいから通常に戻りつつありまして、感染に注意しながらも大会の開催など、どんどん進められていて、そういう環境ができあがりつつあると感じています。ただ高齢者の方々はまだまだ慎重に捉えているところがありますので、地域での交流という点は今後の課題と考えています。

金谷会長 少しでも状況が前に進むことを願っています。

前田委員 基本目標1「まち」の「広報事業」に対する市の評価の中で「各課の創意工夫でユーチューブチャンネルを開設」とありますが、インターネットで探してもなかなか見つかりません。ホームページなどでリンクを貼るなどされていますか。

事務局 各課が開設したユーチューブチャンネルへのリンクがホームページにあるかどうかは、チェックできていません。消防本部についてはリンクがあったかと思います。ユーチューブチャンネルの周知はSNSがメインになっています。

前田会長 この度の台風の報道で、大竹の名前が悪いニュースのほうで全国に広がってしまいましたが、市外の方に大竹に来ていただくための情報発信にもう少し力を入れていただきたいと思いました。また現在、市のPRのための「大好き大竹応援大使」に4名の方が登録されていますが、大使の方々がどのような活動をされているのかなど、市民の皆様にも知っていただくことが必要ではないかと思います。

事務局 ありがとうございます。参考にさせていただきます。

高橋委員 事業をざっと見渡してみますと、例えば「文化財保護事業」や「青少年育成事業」、産業振興関係の事業など色々あって、手すき和紙に関しては、高齢化や担い手の確保などが課題で、今後は歴史や伝統文化に触れる機会を充実させると書いてあります。もちろん機会の充実は大事だと思うんですが、例えば、これを「青少年育成事業」のジュニアリーダー育成事業の中で、手すき和紙という伝統文化を産業化するためにはどうしたらいいのかをテーマに考えてもらい、それを農業振興対策事業などと結びつけて、地元製品のブランド化につなげるなど、横断的な取組

ができないでしょうか。どこかの自治体で、和紙の生産の担い手がいなくなって廃業寸前になっていたのですが、料亭などにその和紙を提供したところ人気が出て、今では受注が多すぎて生産が追いつかなくなっているような事例もありましたので、親和性のある事業同士が横断的につながればよいなと思いました。

金谷会長 施策を効果的に進めるための貴重で重要な意見だと思いますが、いかがでしょうか。

教育長 大竹の和紙ですが、広島県内では非常に少なくなっており、本市の伝統産業としてどうにか子どもたちにつないでいきたいと考え、色々な取組をしています。学校教育の中では、中学3年生以上の総合的な学習の時間の中で、実際の体験を通した学びを進めていますし、生涯学習の関係では、放課後子ども教室などで子どもたちが手すき和紙の製作の様子などを現場に赴いて学んだりしています。先ほどお話のあったジュニアリーダー育成事業でも、原料のコウゾを使って手すき和紙の製作を体験し、和紙を使ったはがきを用いてお世話になった人に手紙を書くなどの取組を行っています。このように大竹の手すき和紙の良さを子どもたちに実感してもらいたいと思いますし、ご意見のように、今後は産業振興と連携することができれば、非常に大きな取組になると思います。

建設部長 和紙に関して補足をしますと、ハード面での取組も進めていまして、小瀬川沿いは伝統的な和紙の産地ということで、令和元年度に改修を行った、小瀬川沿いの防鹿地区にある手すき和紙の里で、おおたけ手すき和紙保存会の方が現在和紙の生産をされており、そちらで販売も行っています。また、その少し上流の穂仁原地区では、和紙で作ったひな人形を俵に乗せて流す伝統行事の「ひな流し」を毎年行っていますが、そこで廃校になった穂仁原小学校の跡地に、ひな流しができるような広場とコウゾ畑の整備を今年度から来年度にかけて進めています。コウゾの生産には土が重要ですので、休耕田などから栽培に適した土を集めてきて、保存会に畑を借りていただいて、そこで生産するなどの連携も進めていきたいと考えています。

金谷会長 先ほど和紙のはがきの話がありましたが、広島市では、原爆ドームなどに飾られていた折り鶴に使われた紙の再利用として、すき直した紙を市役所の職員の名刺に使用したり、私の大学でも卒業証書に使用したりするという事もやっています。市として和紙の消費を増やすために工夫していることがあれば教えてください。

事務局

まず、和紙自体の種類が元々少なかったので、現在8種類ぐらいに増やして生産しています。また、商品も非常に少ないため、これまで和紙製品のメインであった特産品の「手描きこいのぼり」に加えて、しおりなどの商品を保存会が製作し、手すき和紙の里で販売もしています。それから、アーティスト（作家）の方と個別に契約をして、その方が作られた作品の委託販売なども行っています。さらなる製品開発という点では、2年くらい前から、市立大学で漆を専門にされている先生のゼミの学生と、手すき和紙保存会が共同で製品の研究を行っていきまして、そこで漆と和紙を素材に用いたタイルを製作し、現在整備中の大竹駅の自由通路の壁面に飾る予定です。これは、駅の整備費用に充てるためのクラウドファンディングのリターンとして、寄附していただいた方のお名前が入ります。こうした取組も行っているところです。

金谷会長

地元に着心のある方には良いアピールとなる取組だと思います。

梶山委員

本日皆さんの意見を聞かせていただいて強く思ったのが、人にしても物流にしても、どのようにサイクルさせるかが非常に重要で、課題だと感じてます。今の和紙の話で感じたのは、私自身、大竹に生まれ育って、これからも住み続ける予定ですが、和紙の活動のことを全然知らないと思いました。私自身から情報を拾いにいっていないのがありますが、まず知ろうとするきっかけがあちこちに散りばめられていないというのが現状で、たくさんの情報が溢れている中で、欲しい情報はここにありますよ、ということを広く周知していかないと見つけてもらえないんじゃないかなと思います。

それから、基本目標2「ひと」の母子保健・子育て支援分野の関係で「新型コロナウイルス感染拡大により、各種健康診査の受診率が低下している」という記述がありますが、受診率の低下は新型コロナの影響という認識でよいのでしょうか。また、おおたけ版ネウボラが開始されたとありますが、実際私自身が現在子育て世代の真っ只中にいて、ネウボラというものの存在を正直感じたことがないんです。たまたま私がこういう支援を受けなくて済んでいる状況は幸せだと思うんですが、本当に支援が必要と思っている方がいるけど見つけてもらえていない可能性はないのだろうかと感じています。にじいろこども園が市役所敷地内に開設されたことで、一貫した支援ができるというアピールはよく分かるのですが、この施設以外の保育園や幼稚園に通っている子どもたちにも同様のサービスや、きちんと目が行き届いているのか不安を感じます。

あと、基本目標1「まち」の総合評価の中で触れている国道2号沿い

の大規模な空き地の活用に関して、個人的な希望なのですが、小学生ぐらいまでは晴海臨海公園で十分遊べますが、中学生や高校生が思い切り走り回ったり、集まって何かできたりするような施設やサービスなどがあれば、前田委員の意見にもあったような思い出づくりにもつながっていくのではないかと思います。

総務部長

最初の情報発信に関するご意見ですが、まずは広報紙やホームページなどが情報を拾ってもらうきっかけになるのかなと思っています。それで現在市のホームページは情報を見つけづらいという意見をよく聞きますので、見やすいものになるようリニューアルも進めています。本日のご意見も生かしながら、情報を拾いやすい仕組みづくりを進めていきたいと思っています。

それから中学生・高校生ぐらいの年齢の子の遊び場所ですが、旧小方小・中学校跡地の活用に関して、色々な事業者の方にどのような用途が適してるかをヒアリングさせていただいたんですが、その中でスポーツができる施設が非常に求められていると感じました。中学生・高校生だけでなく、若い世代がスポーツをできるような施設も検討の中に含めていきたいと思っています。

健康福祉部長

健診の受診率ですが、新型コロナウイルスの影響で、実際に医療機関での受診控えが生じているように、健診でも減少していますので、個別に勧奨などを行って受診を促していきたいと考えています。

ネウボラの件ですが、市の組織にネウボラの名前のついた課があるわけではないので、なかなかネウボラそのものが認識されないというのはあると思います。ネウボラは切れ目のない子育て支援が目的ですので、保健医療課と福祉課が連携をしながら色々な施策に取り組んでいるところです。子育て支援センター（どんぐり HOUSE）が市役所敷地内に移って物理的に近くなったということもあり、常駐している保育士が気になったことがあれば、すぐ市役所の保健師につながることができるようになっていました。また以前はどんぐり HOUSE で独自に栄養相談などを行っていましたが、新たに「にこにこ相談日」というものを設けまして、保健師と保育士と一緒に身体測定や母乳相談、育児相談などもミックスしてできるような形にするなど、連携した取組に力を入れているところです。ネウボラという名前をストレートに出していないこともあって、なかなか情報にヒットしないところがあるのかもしれませんが、特に問題のあるお子さんがいれば、みんなで一緒に見ていく形を整えつつあります。



金谷会長

ユーチューブやホームページなどのお話を聞いていまして、効果的な市の施策や市が持っている資源に関する情報発信の方法について、これまでの意見や提言についても確かにそうだなと思うのですが、ある研究によりますと、必要な医療や福祉や教育などの生活する上で重要な情報にアクセスする上で「個人的なネットワークがあること」が重要というのがあります。KPI で言えば「近所との関わり」などが当たりませんが、そういうネットワークがある人は重要な情報にアクセスしやすく「病気になるにくい」「子育てがしやすい」と言われていますので、地域活動への参加者やボランティア数、地域との付き合いの度合いなどが、指標として目標値に達していないところは着目すべき点かと思いません。これらは精神的な問題だけでなく、市民のサービス水準にもつながっていく話ですので、もう少し力を入れていただければと思います。

ちょうど終了予定の時間になりましたが、委員の皆様でやはりこれは言うておかななくてはいけないということがありましたら、ご発言いただければと思います。

兼田委員

評価について一点だけ。評価資料の個票を見ていますと、各事業をしっかりと評価されていると感じましたが、本当は KPI ごとに評価をするものなのかなと思います。ただ、KPI 自体がかなり多く、1つの課が複数の KPI を抱えていて、これを全部評価するのはリソース的にいかなものかという気もするんです。全部の KPI を評価して、何故達成していないかをしっかり検証して PDCA サイクルを回すとなると、その作業ばかりになって事業が全然進まないということにもなりかねない気がするので、可能な範囲でいいので、KPI の中でもこれだけはしっかり回しましょうという重要なものを決めてやっていくことから始めてもいいのではないかと感じました。

金谷会長

本当に貴重な意見をありがとうございます。評価というのは必要なものだとは理解していますが、実際の評価作業には多大なエネルギーが要ると思いますので、KPI の重点化ができればいいと私も思います。他にありますか。

古市委員

今後、大竹駅の橋上化や民間美術館ができるなど、色々なシーズが出てきていますので、これをいかに有効に活用するかが重要になると思います。梶山委員が言われた情報発信のあり方や、高橋委員が言われた事業間の連携、伝統文化の産業化などのご提案をうまくつなげてほしいと思います。非常に明るい話題が次々に出てきて、良い方向には向かっていると思いますので、ぜひ有効な活用をお願いしたいです。

金谷会長

ありがとうございます。もし後で思いついたことなどがありましたら、追加の意見として事務局にお寄せいただければと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは予定の時間も過ぎましたので、第2期総合戦略の令和3年度の取組についての評価に対する意見交換は、ここまでとします。長時間にわたって議論していただき、ありがとうございました。

最後に本日皆様からいただいた意見の取扱いについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

たくさんのご意見、本当にありがとうございました。いただいたご意見ですが、これから第2期総合戦略の事業を含む令和5年度の実施計画の策定、そして令和5年度当初予算の編成に取り掛かっていきますが、特に第2期総合戦略の事業については、本日のご意見を踏まえつつ、3つの成果指標の達成に必要なことをしっかり考えながら進めていきたいと思っております。ご指摘のあったKPIの重点化については、今後の検討課題としてさせていただきたいと思っております。

なお、先ほどの会長からもお話がありましたが、お時間の都合でご発言いただけなかったことがありましたら、後日事務局まで、メールや口頭などどんな形でも構いませんのでお伝えいただければ、市の考え方などを整理した上で、委員の皆様にも共有する形でお答えいたします。また、本日の会議録については、作成次第、皆様にも内容のご確認をお願いするかと思いますので、その際はよろしくお願いいたします。

金谷会長

対応をよろしくをお願いします。

では以上をもちまして、令和4年度第1回推進会議を終了します。長時間に渡り、ありがとうございました。